

ハッセルマン博士は極めて精力的な研究者で、純粋理論に止まらず、その応用分野である波浪予報分野にも及んでいます。1970年頃には、北海で大規模な野外実験を行い、その成果も取り入れつつ、波浪予報モデルを構築しました。さらに、1980年代に入ると、ヨーロッパを中心とした多くの研究者で組織的な波浪予測モデルの開発を先導しました。この成果により、今日のヨーロッパなど多くの気象機関で波浪予報のために運用されている第3世代波浪モデルの基本的な枠組みを提供し、現在へとつながり、世界各国で海難の防止等で多くの貢献をしています。

現在、気象庁で運用されている波浪予報モデルにも博士の構築したモデルの枠組みが活かされており、気象庁が毎日発表している波浪予報や予報図として船舶の安全等に貢献しています³。また、当センターから予報業務許可事業者等の民間の専門家の皆様にオンライン提供⁴している気象情報の中にも、波浪予報モデルによる格子点資料があり、船舶の経済運航や沿岸での防災や海洋開発等で高度な利用が行われています。

真鍋博士、さらには、ハッセルマン博士ともに、常に基礎から社会での実際の応用に結びついている気象や地球科学分野でノーベル物理学賞を授与されることは、気象庁だけではなく民間も含めた気象関係者に大いなる刺激を与えており、関係各位の奮起とともに、これまで以上に気象や波浪などの海洋気象情報が社会に貢献をすることを期待しています。

³ 「海洋に関する数値予報モデルの種類」(気象庁ホームページ) :

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/whitep/1-3-4-2.html>

(日本沿岸を対象とした3種類の波浪モデルが運用されています)

⁴ 「オンライン気象情報(ファイル形式データ)」(センターホームページ) :

<http://www.jmbc.or.jp/jp/online/f-online0.html>

(理事長)